

### 議題3 若い世代からの健康意識の醸成及び健康づくり支援

<p>現 状</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●若年層の新規人工透析患者の増加 腎機能障害者手帳1級の新規取得者 令和5年度：30代4人、40代6人、50代8人  令和4年度：30代0人、40代1人、50代3人</li> <li>●健康診断受診率（国保の特定健診・長寿健診）が低い 特定健診：令和5年度 37.2%（県42.4%） 長寿健診：令和5年度 21.6%（県26.1%） がん検診（平均）：令和5年度 10.9%（県11.0%）</li> <li>●スポーツ実施率（過去1年間に週1回以上、運動・スポーツを行った割合）について、若い世代の割合が低い 令和5年度 54.1% (30代 52.9%、50代 39.8%)</li> </ul>
<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い世代は、仕事や子育てなどで多忙であり、運動の実施、健診受診又は継続受診等につなぐにくい。 ⇒ <u>早い時期から健康意識の醸成及び健康づくり支援を行う必要があるものと考えられる。</u></li> </ul>
<p>令和8年度以降 の取組の方向性 (案)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●<u>次世代（19歳以下）に対する健康づくり支援の推進</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) <u>児童・生徒に向けた学校での健康意識向上のための取組</u> ⇒ ・困難やストレスに直面したとき、身近にいる大人に助けの声を上げられるように学ぶ教育を教育機関等と推進する。 (SOSの出し方教育) ・生活習慣病に関する正しい知識をつけてもらうための取組を推進</li> <li>(2) <u>オーラルフレイル<sup>※1</sup>予防の取組</u> ⇒ 育児教室や健康教育の場を活用し、啓発の強化</li> <li>(3) <u>プレコンセプションケア<sup>※2</sup>の推進（健康意識向上啓発）</u> ⇒ 思春期からの健康教育の充実</li> <li>(4) <u>「食」による健康増進啓発</u> ⇒ 食育の充実</li> <li>(5) <u>スポーツを通じた健康づくりの推進</u> R7.1.13「鹿屋市 スポーツ実施率日本一宣言」 ⇒ 市民スポーツ課が実施するスポーツイベントでの健康ブースの設置</li> </ul> </li> </ul>

※1：オーラルフレイルとは、歯や口の機能が衰えた状態のこと。

※2：プレコンセプションケアとは、「コンセプション=妊娠」と「プレ=前もって」を組み合わせた言葉で、将来の妊娠を考えながら、自分の身体や心の状態を知り、毎日の生活や健康と向き合うこと。